

リモートコントロールデバイス

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。

本書で取り扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます（バックアップコピー）。

Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2012.

All rights reserved.

目次

5	リモートコントロールデバイス
6	はじめに
6	Apple Remote (アップル社製コンピュータのみ)
6	CM Automation Motor Mix
8	Houston
8	JL Cooper CS-10
9	JL Cooper MCS-3000
9	Mackie Control
9	Mackie HUI
11	Radikal Technologies SAC-2K
13	Roland MCR-8
13	Tascam US-428
14	Gallery ADRStudio (Nuendoのみ)
14	WK-Audio ID (Nuendoのみ)
14	Yamaha 01V
15	Yamaha DM2000/DM 2000v2
16	Yamaha DM1000v2
16	Yamaha 01v96v2
16	Yamaha 02r96v2
17	Mackie Control と Cubase の使用
18	Mackie ControlにおけるSteinbergレイアウト
18	基本的なミキシング操作
21	コントロールストリップのアサイン
29	トランスポートコントロール
30	その他の機能
32	索引

1

リモートコントロール デバイス

はじめに

MIDI 経由でプログラムの機能をコントロールすることが可能です。さまざまな MIDI コントロール デバイスがサポートされています。このマニュアルは、サポートされたりリモート コントロール デバイスをリストアップし、それらの機能をまとめて手短かに記しています。

Apple Remote (アップル社製コンピュータのみ)

アップル社製コンピュータの多くには、Apple Remote という、テレビのリモコンに似た小さな装置が付属しています。これを利用すると、プログラムの機能のいくつかをリモート コントロールすることができます。

Apple Remote コントロールのパラメーターや機能の詳細については、『オペレーション マニュアル』を参照してください。

CM Automation Motor Mix

CM Automation Motor Mix は、任意の数のチャンネルを 8 チャンネルずつまとめてコントロールできます。

- [**<**] と [**>**] ボタン ("View" セクション最上部) を押して、チャンネル 1-8、9-16 などを選択します。"Shift" スイッチを押しながら [**<**] または [**>**] ボタンを押すとフェーダーのアサインは 1 チャンネルずつ段階的にずれます。
- "F1" を押してフェーダーのモーターのオン / オフを切り換えます。
- [Select] ボタン (ディスプレイのすぐ下に並ぶ列) で、1 つのトラックを選択して詳細設定を行ないます。
- 各トラックの [Mute] と [Solo] ボタンで、トラックをミュートまたはソロに設定します。
- ダイアルの下、1 列目のボタンのアサインは、選択されたパラメーター グループにより異なります。
- "View" セクションで "Rec/Rdy" を選択すると、ダイアルの下、2 列目のボタンを使用してトラックを録音可の状態にすることができます。
- "View" セクションで "Write" または "fnct B" を選択すると、ミキサーの [Write] または [Read] ボタンをコントロールできます。また、"Write/ fnct B" が選択されると、CM Motor Mix コントロールの左側下部の [All] ボタンを使用してミキサーの [Write All/Read All] ボタンを操作できます。
- [Auto Enb] ボタンはプログラムの再生 / 停止機能をコントロールします。
- [Suspend] ボタンはプログラムの録音機能をコントロールします。

- [DSP] ボタンを押すと、プロジェクト カーソルがプロジェクトの開始地点に移動します。
[Shift] ボタンを押しながら [DSP] ボタンを押すと、プロジェクトカーソルはプロジェクトの終了地点に移動します。
- [Window] ボタンを押すと、プロジェクト カーソルは左ロケーターの位置に移動します。
[Shift] ボタンを押しながら [Window] ボタンを押すと、プロジェクトカーソルは右ロケーターの位置に移動します。
- [Default] ボタンを押すと、オートパンチインのオン / オフを切り換えます。
[Shift] ボタンを押しながら [Default] ボタンを押すと、オートパンチアウトのオン / オフを切り換えます。
- [Undo] ボタンを押すと、プログラムで最後に行なった作業をアンドゥ (取り消し) します。
[Shift] ボタンを押しながら [Undo] ボタンを押すと、アンドゥをアンドゥ (リドゥ) します。

"Rotary" セクションの "Rotary" ダイアルを操作し、ダイアルの下 の 4 つのボタンのアサイン ("ROTARY" のディスプレイに表示) を変更します。

ROTARY 表示: PA

- [equaliz] ボタン: フェーダー セット モードのパン
- [dynamics] ボタン: フェーダー セット モードのルーティング
- [delay] ボタン: 選択チャンネル モードのパン
- [special] ボタン: 選択チャンネル モードのルーティング

ROTARY 表示: EQ

- [equaliz] ボタン: フェーダー セット モードの EQ"Low" (EQ1)
- [dynamics] ボタン: フェーダー セット モードの EQ"Mid-Low" (EQ2)
- [delay] ボタン: フェーダー セット モードの EQ"Mid-High" (EQ3)
- [special] ボタン: フェーダー セット モードの EQ"High" (EQ4)

ROTARY 表示: S1

- [equaliz] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 1"
- [dynamics] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 2"
- [delay] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 3"
- [special] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 4"

ROTARY 表示: S2

- [equaliz] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 5"
- [dynamics] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 6"
- [delay] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 7"
- [special] ボタン: フェーダー セット モードの "Send 8"
- "View" セクションの [Bank Up] ボタンを使用してページを進めます。
[Shift] ボタンを押しながら [Bank Up] ボタンを押すと最後のページにジャンプします。

- "View" セクションの [Bank Down] ボタンを使用してページを戻します。
[Shift] ボタンを押しながら [Bank Down] ボタンを押すと最初のページにジャンプします。
- "Rotary" ダイアルを押すと、有効なパラメーターの名称、またはページ名称のオン / オフを切り換えます。

フェーダー セット モードのパン：

- Page 1 - 左右のパン
- Page 2 - フロント / リアのパン
- ダイアルの下のボタン：モニター

フェーダー セット モードのルーティング：

- Page 1 - 出力バス
- Page 2 - モニター
- Page 3 - 入力バス
- Page 4 - インプット ゲイン
- Page 5 - インプット フェーズ
- ダイアルの下のボタン：モニター

選択チャンネル モードのパン：

- 1 ページ目 - 左右のパン、フロント / リアのパン
- ダイアルの下のボタン：モニター

選択チャンネル モードのルーティング：

- Page 1 - 出力バス、モニター、入力バス、インプット ゲイン、インプット フェーズ
- ダイアルの下のボタン：モニター

フェーダー セット モードの EQ1 から EQ4 (例 EQ1)：

- Page 1 - EQ "Low" の "Gain"
- Page 2 - EQ "Low" の "Frequency"
- Page 3 - EQ "Low" の "Q"
- Page 4 - EQ "Low" の "Enable"
- Page 5 - EQ のバイパス
- ダイアルの下のボタン：EQ のバイパス

フェーダー セット モードの "Send1" から "Send8" (例 "Send1")：

- Page 1 - "Send1" の "Level"
- Page 2 - "Send1" の "Enable"
- Page 3 - "Send1" の "Pre/Post"
- Page 4 - "Send1" の "Bus"
- Page 5 - センドのバイパス
- ダイアルの下のボタン：センドのバイパス

[F2] ボタン：選択チャンネル モードの EQ

- Page 1 - "lo" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"、そして "lo mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"
- Page 2 - "hi mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"、そして "hi" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"
- ダイアルの下のボタン：EQ のバイパス

[Shift] ボタンを押しながら [F2] ボタンを押すと、選択チャンネル モードの EQ のバリエーションとなります：

- Page 1 - すべてのバンドの "Gain" と "Frequency"
- Page 2 - すべてのバンドの "Q" と "Enable"
- ダイアルの下のボタン：EQ のバイパス

[F3] ボタン：選択チャンネル モードのセンド

- Page 1 - "Send 1" と "Send 2" の "Level"、"Enable"、"Pre/Post" とバス
- Page 2 - "Send 3" と "Send 4" の "Level"、"Enable"、"Pre/Post" とバス
- Page 3 - "Send 5" と "Send 6" の "Level"、"Enable"、"Pre/Post" とバス
- Page 4 - "Send 7" と "Send 8" の "Level"、"Enable"、"Pre/Post" とバス
- ダイアルの下のボタン：センドのバイパス

[Shift] ボタンを押しながら [F3] ボタンを押すと、選択チャンネル モードのセンドのバリエーションとなります。

- Page 1 - "Send 1" から "Send 8" までの "Level"
- Page 2 - "Send 1" から "Send 8" までの "Enable"
- Page 3 - "Send 1" から "Send 8" までの "Pre/Post"
- Page 4 - "Send 1" から "Send 8" までのバス
- ダイアルの下のボタン：センドのバイパス

[F4] ボタン：選択チャンネル モードのインサート

[Next] ボタン：グローバル モードのセンド エフェクト

[Last] ボタン：グローバル モードのマスター エフェクト

[Enter] ボタン：グローバル モードのインストゥルメント

- それぞれの詳細については、17 ページの『[Mackie Control と Cubase の使用](#)』の章を参照してください。

Houston

Houston は、特に Cubase や Nuendo などの VST オーディオ アプリケーションと併用するために設計された、MIDI / USB リモート コントロール デバイスです。Houston はわかりやすく配置されたコントロールで (タッチセンシティブ モーターフェーダー、ロータリーノブ、トランスポート コントロール、ジョグ / シャトル ホイールを含む)、コンピュータのキーボード、あるいはマウスを使用せずにプログラムを制御できます。

- **パラメーター、および実際のミキシングテクニックの詳細については、Houstonのマニュアルを参照してください。**

有効な機能は以下のとおりです。

[Dyn/User1]: 選択チャンネルのスタジオ センド

- Page 01 - "Level"
- Page 02 - "Enable"
- Page 03 - "Pre/Post"
- Page 04 - "Pan Left/Right"

[User2]: 選択チャンネルのインストゥルメント (インストゥルメントトラックの場合および MIDI トラックから VST インストゥルメントトラックの VSTi を利用する場合)

- Page 1 - インストゥルメントの選択
- Page 2-n - インストゥルメントのパラメーター

フェーダー セット セクション

- [Shift]+[FX Send1]: スタジオ センド 1
- [Shift]+[FX Send2]: スタジオ センド 2
- [Shift]+[FX Send3]: スタジオ センド 3
- [Shift]+[FX Send4]: スタジオ センド 4
- Page 1 - "Level"
- Page 2 - "Enable"
- Page 3 - "Pre/Post"
- Page 4 - "Pan Left/Right"

JL Cooper CS-10

CS-10 は、32 個のチャンネルを (8 チャンネルずつ) リモート コントロールできます。下記の CS-10 のコントロールは、各チャンネルストリップに対する表記のパラメーターをリモートします。

- **フェーダー: ボリューム**
- **Solo / Mute: ソロ / ミュート**
- **Sel: 編集したいチャンネルの選択**

選択された各チャンネルについて、CS-10 の 6 個のロータリーノブを使って、以下のパラメーターをリモート コントロールできます。

ダイアル	パラメーター
Send 1	センド1 (Effect send 1)
Send 2	センド2 (Effect send 2)
Pan	パン (Pan)
Boost/cut	EQ1ゲイン (EQ 1 Gain)
Frequency	EQ1周波数 (EQ 1 Freq.)
Bandwidth	EQ1 Q (EQ 1 Quality)


- **CS-10の機能キー[1]から[4]は、チャンネル1-32を8チャンネルずつ選択するのに使います。**

[1] はチャンネル 1-8 を、[2] はチャンネル 9-16 を選択します。

- **[Shift] キーを押しながらフェーダーを動かすと、フェーダーの横の 2つのインジケーターに、フェーダーの位置がプログラムの現在のフェーダー レベルを上回っているか、下回っているかが示されません。**

上のインジケーターが点灯していれば、パネル上のフェーダー ポジションが**プログラムのフェーダー レベルを上回っていること**、下のインジケーターが点灯していれば、その逆であることを示します。インジケーターが 2 つとも消えているときは、そのチャンネルのフェーダー ポジションは Cubase と一致しています。

- **CS-10の再生、ストップ、レコード、巻戻し、早送りなどの各トランスポート機能は、プログラムのトランスポートに対応します。**

 **CS-10 は、「MIDI フィードバック」をサポートしているので、VST のソロ (Solo) / ミュート (Mute)、チャンネルの選択状況を CS-10 のパネル上に表示させることができます。この機能 (およびフェーダー ポジションの表示) を使えるようにするには、CS-10 とプログラムの間で、双方向による MIDI 接続が必要です。**

JL Cooper MCS-3000

MCS-3000 は、32 個 (8 チャンネルずつのグループ) の VST チャンネルをリモート コントロールできます。下記の MCS-3000 のコントロールは、各 チャンネル ストリップに対する VST パラメーターをリモート コントロールします。

- フェーダー: ボリューム
- Solo / Mute: ソロ / ミュート
- Sel: 編集したいチャンネルの選択
選択された各チャンネルについて、MCS-3000 のダイヤルを使用して、また、[1] から [4] を切り換えることで、下記のパラメーターをリモート コントロールできます。

ページ1		ページ2	
ダイヤル	パラメーター	ダイヤル	パラメーター
1	パン (Pan)	1	EQ1 ゲイン (EQ 1 Gain)
2	センド1 (Effect send 1)	2	EQ1 周波数 (EQ 1 Freq.)
3	センド2 (Effect send 2)	3	EQ1 Q (EQ 1 Quality)
4	センド2 (Effect send 2)	4	EQ1 loリミット (EQ 1 Low Limit)
5	センド2 (Effect send 2)	5	EQ1 hiリミット (EQ 1 High Limit)

ページ3		ページ4	
ダイヤル	パラメーター	ダイヤル	パラメーター
1	EQ2 ゲイン (EQ 2 Gain)	1	EQ3 ゲイン (EQ 3 Gain)
2	EQ2 周波数 (EQ 2 Freq.)	2	EQ3 周波数 (EQ 3 Freq.)
3	EQ2 Q (EQ 2 Quality)	3	EQ3 Q (EQ 3 Quality)
4	EQ2 loリミット (EQ 2 Low Limit)	4	EQ3 loリミット (EQ 3 Low Limit)
5	EQ2 hiリミット (EQ 2 High Limit)	5	EQ3 hiリミット (EQ 3 High Limit)

- MCS-3000のバンクキー[1]から[4]は、VSTチャンネル1-32を8チャンネルずつ選択するのに使います。
バンクキー [1] はチャンネル 1-8 を、バンクキー [2] はチャンネル 9-16 を選択します。
- MCS-3000 の [Set Locate] キーを押し、マーカー ID を入力してから [Enter]/[Return] キーを押し、マーカーを作成できます。

- マーカーの位置を見つけるには、MCS-3000 の [Locate] を押し、マーカー ID を入力してから [Enter]/[Return] キーを押します。
- MCS-3000 の再生、ストップ、レコード、巻戻し、早送りの各トランスポート機能は、ご使用のアプリケーションのトランスポートに対応します。

⚠ MCS-3000 は、「MIDI フィードバック」をサポートしているので、VST のソロ (Solo) / ミュート (Mute)、チャンネルの選択状況を MCS-3000 のパネル上に表示させることができます。この機能 (およびフェーダー ポジションの表示) を使えるようにするには、MCS-3000 とアプリケーションの間で、双方向による MIDI 接続が必要です。

Mackie Control

Mackie Control はタッチセンスのオートフェーダーのコントロールサーフェスです。サポートするデジタル オーディオ ワークステーションに対する細部に及ぶミキシングや編集、オートメーションとナビゲーションが可能な、9 本のフェーダー (8 チャンネルとマスター) を備えた MIDI コントローラーです。

Steinberg 専用のキー アサインを示す Lexan オーバーレイ シートを Mackie Control デバイスに装着して、コントローラーをご使用のプログラム用にカスタマイズすることが可能です。

Mackie Control に関しては別の章で説明しています。詳細については、17 ページの『Mackie Control と Cubase の使用』を参照してください。

Mackie HUI

Mackie HUI は、任意の数のチャンネルを 8 チャンネルずつまとめてコントロールできます。

- 左右の [Bank] ボタンを使ってチャンネル 1-8、9-16 の選択をします。
- 左右の [Channel] ボタンを使ってフェーダーのアサインを 1 チャンネルずつ段階的にずらします。
- "Auto Enable" セクションの [Fader] ボタンで、モーターのオン/オフを切り換えます。
- "Auto Enable" セクションの [Mute]、[Pan]、[Send]、[Plug In]、[Send Mute] には、現在のところ対応していません。
- [Rec/Rdy] ボタンでトラックを録音可の状態に設定できます。
- 1 つのトラックの詳細設定を行なう場合、[Select] ボタンを使用します。
- [Mute] と [Solo] ボタンで、トラックをミュート、ソロの設定を行ないます。
- [Default] ボタンですべてのトラックのソロを解除します。
- [Assign] ボタンですべてのトラックのミュートを解除します。

- ・ タイム ディスプレイの右、"Rude Solo Light" と表示された LED の点灯は、どこかのチャンネルがソロとなっていることを示します。
- ・ [Insert] ボタンで、1 つのトラックのすべてのインサートをバイパスにすることが可能です。

"Select Assign" セクションの [Pan] ボタン：

- ・ フェーダー セット：左右のパンまたはフロント / リアのパン ボタンを押すごとにアサイン設定が周期的に変更されます (8 つの V-Pot でパンパラメーターを調整)。
- ・ "Select Assign" セクションの [V-Sel] ボタン：トラックのモニター

"Select Assign" セクションの "Send A" から "Send E" までのボタン：

- ・ フェーダー セット："Send 1" のレベルから "Send 8" のレベル ([Send A] から [Send D] ボタンが "Send 1" から "Send 4" に対応し、[Send E] ボタンは "Send 5" から "Send 8" に対応：ボタンを押すごとにアサインが周期的に変更)
- ・ "Select Assign" セクションの [V-Sel] ボタン：センドのオン / オフスイッチ (選択されたセンドによって異なる)
- ・ "Select Assign" セクションの [Shift] ボタン + [V-Sel] ボタン：プリ / ポスト フェーダー スイッチ (選択されたセンドによって異なる)
- ・ "Select Assign" セクションの "SELECT ASSIGN" ディスプレイ (4 文字) は、V-Pot と [V-Sel] ボタンに対するセンドまたはパンのアサインを表示します。
- ・ [Select] ボタンの上の 4 文字ディスプレイには、アサインされたトラックの名前が表示されます。
- ・ "Select Assign" セクションの [Bypass] ボタンは、[Insert] ボタンのバイパス機能を示すために常に選択されます。
- ・ "Select Assign" セクションの [Mute]、[Rec/Rdy All]、[Input]、[Output] ボタンは現在のところサポートされていません。
- ・ [Auto] ボタンは、ミキサーでの [Read] と [Write] ボタンの状態をコントロールします ("Auto Mode" セクションの [Read] と [Write] ボタンの状態による)。
- ・ "Auto Mode" セクションの [Off] ボタンを使用して、ミキサーでの [Read All] または [Write All] ボタンをコントロールします ("Auto Mode" セクションの [Read] と [Write] ボタンの状態による)。
- ・ "Auto Mode" セクションの [Touch]、[Latch]、[Trim] ボタンは、現在のところサポートされていません。
- ・ "Window" セクションの [Transport] ボタンを使用して、トランスポートパネルの開閉を行いません。
- ・ "Window" セクションの [Edit] ボタンでは、現在のプロジェクトウィンドウを画面の最前面に表示させることができます。
- ・ "Window" セクションの [Status] ボタンを使用して、VST バフォーマンスウィンドウを開閉できます。
- ・ "Window" セクションの [Mix] ボタンを使用して、ミキサーウィンドウの開閉が可能です。

- ・ "Window" セクションの [Mem-Loc] ボタンを使用して、マーカーウィンドウを開くことができます。
- ・ "Window" セクションの [Alt] ボタンは、ユーザーによって定義された機能に使用することが可能です。
- ・ "Keyboard Shortcuts" セクションの [Undo] ボタンは、最後の操作をアンドウ (取り消し) します。
[Shift] ボタンを押しながら [Undo] ボタンを押すと、アンドウされた操作がアンドウとなります (操作の復活、すなわちリドゥ)。
- ・ "Keyboard Shortcuts" セクションの [Save] ボタンを押すと、現在のプロジェクトが保存されます。
[Shift] ボタンを押しながら [Save] ボタンを押すと、現在のプロジェクトのバックアップ コピーが保存されます。
- ・ "Keyboard Shortcuts" セクションの [Edit Mode]、[Edit Tool]、[Option/All]、[Ctrl/Clutch]、[Alt/Fine] ボタンは、現在のところサポートされていません。
- ・ "Edit" セクションの [Cut]、[Copy]、[Paste]、[Delete] ボタンは、それぞれ、プログラムで対応する機能をコントロールします。
- ・ "Edit" セクションの [Capture] と [Separate] ボタンは、現在のところサポートされていません。
- ・ "Status/Group" セクションのボタンは、現在のところサポートされていません。
- ・ トランスポートの上の [In] または [Out] ボタンを使用すると、プロジェクトカーソルを左または右ロケーターの位置に移動することが可能です。
[Shift] ボタンを押しながら [In] または [Out] ボタンを使用すると、左または右ロケーターを現在のプロジェクトカーソルの位置に移動します。
- ・ [RTZ] または [END] ボタンを使用して、プロジェクトカーソルをプロジェクトの開始地点または終了地点に置くことができます。
- ・ [Quick Punch] ボタンを押すと、オートパンチインのオン / オフを切り換えます。
[Shift] ボタンを押しながら [Quick Punch] ボタンを押すとオートパンチアウトのオン / オフを切り換えます。
- ・ [Loop] ボタンを押すとサイクル モードのオン / オフを切り換えます。
- ・ [On Line] ボタンを押すと同期のオン / オフを切り換えます。
- ・ [Audition]、[Pre]、[Post] ボタンはユーザーによって定義される機能に用いられます (ファンクションキー [F1] から [F7] を参照)。
- ・ Mackie HUI の再生、ストップ、レコード、早送り、巻戻しの各トランスポート機能は、ご使用のアプリケーションのトランスポートに対応します。
- ・ ジョグホイールは、アプリケーションのプロジェクトカーソルの位置を移動します。
- ・ [Scrub] と [Shuttle] ボタンは現在のところサポートされていません。

- ジョグホイールの左に位置する矢印キーを押すと、コンピューターキーボードの矢印キーを押すのと同じ動作となります。
[Mode] ボタンが選択されている場合、矢印キーはプロジェクト ウィンドウのズームをコントロールします。
- "DSP Edit/Assign" セクションの "Scroll" コントロールを使用して、1つのパラメーター グループのページをスクロールすることが可能です。
- "DSP Edit/Assign" セクションの [Compare] ボタンはページを進めます。
"Keyboard Shortcuts" セクションの [Shift] ボタンを押しながら [Compare] ボタンを押すと、最後のページにジャンプします。
- "DSP Edit/Assign" セクションの [Bypass] ボタンを押すと、ページが戻ります。
"Keyboard Shortcuts" セクションの [Shift] ボタンを押しながら [Bypass] ボタンを押すと、最初のページにジャンプします。
- "DSP Edit/Assign" セクションの [Insert/Param] ボタンは、下の列の有効パラメーターの名称を表示 / 非表示に切り換えます。

F1 ボタン：選択チャンネル：EQ

- Page 1 - "lo" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- Page 2 - "lo mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- Page 3 - "hi mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- Page 4 - "hi" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q" と "Enable"
- ダイアル上のボタン：EQ のバイパス

F2 ボタン：選択チャンネル：センド

- Pages 1 から 8 - センド 1 から 8 の "Level"、"Enable"、"Pre/Post" とパス
- ダイアル上のボタン：センドのバイパス

F3 ボタン：選択チャンネル：ルーティング

- Page 1 - 出力バス、モニター、入力バス、インプット ゲイン
- Page 2 - インプット フェーズ
- ダイアル上のボタン：モニター
- F4 ボタン：選択チャンネル：インサート、F5 ボタン：グローバルモードのセンドエフェクト、F6 ボタン：グローバルモードのマスターエフェクト、F7 ボタン：グローバルモードのインストゥルメントは Mackie Control の場合と同様です。17 ページの『Mackie Control と Cubase の使用』の章を参照してください。
- [Locate/Numerics] ボタンを使用してプロジェクト カーソルの位置を設定できます。
- 数値を入力すると、Mackie HUI のタイム ディスプレイに表示されていたプロジェクト カーソルの位置が新しい値と入れ替わります。
- 新しい値の入力に小数点やコロンやセミコロンなどは必要はありません。

- [CLR] ボタンで最後の数値を削除できます。"Keyboard Shortcuts" セクションの [Shift] ボタンを押しながら [CLR] ボタンを押すと、新しい値を削除します。
- [Enter] ボタンを押すと、プロジェクト カーソルは新しい値にセットされます。
- [+] と [-] ボタンを利用して、入力した値だけプロジェクト カーソルを進める、または戻すことができます。
- タイム ディスプレイ左の 3 つの LED は、小節と拍 ("BEATS")、フレームをベースとするタイムコード ("TIME CODE")、フィートとフレーム ("FEET")、サンプル数 (LED の点灯なし) の内、どれが選択されているのかを示しています。

有効な機能は以下のとおりです。

F8 ボタン：選択チャンネルのインストゥルメント

- Page 1 - インストゥルメントの選択
- Page 2-n - インストゥルメントのパラメーター

Radikal Technologies SAC-2K

SAC-2K により、32 個の VST チャンネルを一度に 8 チャンネル、コントロールできます。

- [17-24] ボタン、[25-32] ボタンを押して、8 チャンネルのセットを切り換えます。
- [1-8] ボタン、[9-16] ボタンで、フェーダーのアサインを 1 チャンネルずつ段階的にずらすことができます。
- マスターフェーダーの上の [Select] ボタンでモーターのオン/オフを切り換えます。
- [Mute/Solo] ボタン (いちばん左のボタン) を繰り返し押して、各チャンネルの [Mute/Solo] ボタンと [Select] ボタンに対するアサインを切り換えます。

LED 状況	[Mute/Solo] ボタン	[Select] ボタン
LED オフ	トラックのミュート	詳細設定のために単一トラックを選択。
LED オン	トラックのソロ	単一トラックを選択
LED 点滅	ミキサーの [Write] ボタンの状態をコントロール	[Read] ボタンの状態をコントロール

- [From] ボタンまたは [To] ボタンで、プロジェクト カーソルを左または右ロケーターの位置に移動します。
[Shift] ボタンを押しながら [From] または [To] ボタンを押すと、左または右ロケーターを現在のプロジェクト カーソルの位置に移動します。[Shift] ボタンを押しながら、[<<] または [>>] ボタンを押すと、プロジェクト カーソルはプロジェクトの開始地点または終了地点にセットされます。

- **[Store Marker]** ボタンを押すと、プロジェクト カーソルの位置にマーカーが作成されます。
[Shift] ボタンを押しながら [Store Marker] ボタンを押すと、マーカーウィンドウが開きます。
- **[Recall Marker]** ボタンを使用して、プロジェクト カーソルを右側で最も近いマーカーに移動させることができます。
[Shift] ボタンを押しながら [Recall Marker] ボタンを押すと、プロジェクト カーソルを左側で最も近いマーカーに移動させることができます。
- **SAC-2Kの再生、ストップ、レコード、[<<]、[>>]** の各トランスポート機能は、プログラムのトランスポートに対応します。
- **ジョグホイール**は、プロジェクト カーソルの位置を動かします。
- **[Scrub]** ボタンは現在のところサポートされていません。
- **[Num]** ボタンの状態 ("Software Navigation" セクション) により、[1] から [0] までのボタンと [Enter] ボタンの機能が異なります。

[Num] ボタンの LED が点灯している場合、これらのボタンを使用してプロジェクト カーソルの位置をセットします。

- 数値を入力すると、SAC-2k のタイム ディスプレイに表示されていたプロジェクト カーソルの位置が新しい値と入れ替わります。
- 新しい値の入力に小数点やコロンやセミコロンなどは必要はありません。
- [Num] ボタン：新しい値を削除し、ロケート機能を無効にします。
- [Enter] ボタン：プロジェクト カーソルを新しい値に応じた位置にセットします。
- [Store Marker]：プロジェクト カーソルを新しい値に応じた位置にセットし、新しい位置にマーカーを作成します。

[Num] ボタンの LED が消灯している場合：

- [1] ボタンで、1 つのパラメーター グループのページを段階的に進められます。
- [Shift] ボタンと [1] ボタンを押すと、最後のページにジャンプします。
- [6] ボタンでページを戻ります。
- [Shift] ボタンと [6] ボタンを押すと、最初のページにジャンプします。
- [Enter] ボタンを押すと、下の列の有効パラメーターの名称を表示/非表示に切り換えます。
- ファンクションキー [2] から [5]、[7] から [0] を使用して、あるいはファンクションキーと [Shift] ボタンを同時に押すことによって、プログラムの各機能にアクセスが可能です。リモートコントローラーのファンクションキーにプログラムの機能をアサインする方法については、『オペレーションマニュアル』を参照してください。いくつかのキーはすでにアサインされています (変更も可能です)：
[5] ボタン：最後の操作をアンドゥ (取り消し) します。[Shift] ボタンを押しながら [5] ボタンを押すと、アンドゥをアンドゥ (すなわち

リドゥ) します。

[7] ボタン：コピー、[Shift] ボタン+[7] ボタン：カット

[9] ボタン：ペースト

[0] ボタン：現在のプロジェクトを保存、[Shift] ボタン+[0] ボタン：現在のプロジェクトのコピーをバックアップ

[Shift] ボタンを押しながら [2]、[3]、[4] または [8] ボタンを押すと、プロジェクト ウィンドウのズームをコントロールできます。

"Mixer-Mode" セクションの [Pan] ボタン：フェーダー セット モードのパン

- Page 1 - 左右のパン
- Page 2 - フロント / リアのパン
- V-Pot を押すと、そのチャンネルのモニターのオン / オフを切り換えます。

[High] ボタン：フェーダー セット モードの EQ "High"

- Page 1 - "Gain"
- Page 2 - "Frequency"
- Page 3 - "Q"
- Page 4 - "Enable"
- V-Pot を押すと、そのチャンネルの EQ がバイパスとなります。

[HiMid]、[LowMid]、[Low] ボタン：フェーダー セット モードの EQ "Mid-High"、"Mid-Low"、"Low"

- [Snd/Ins 1] ボタン：フェーダー セット モードの "Send 1"
- Page 1 - "Level"
- Page 2 - "Enable"
- Page 3 - "Pre"/"Post"
- Page 4 - バス
- V-Pot を押すと、そのチャンネルのセンドがバイパスとなります。

[Snd/Ins 2] から [Snd/Ins 4] のボタン]：フェーダー セット モードの "Send 2" から "Send 4"

[Snd/Ins] ボタン ([Snd/Ins 1] ボタンの上) の状態により、[Snd/Ins 1] から [Snd/Ins 4] のボタンは "Send 1" から "Send 4"、または "Send 5" から "Send 8" にアサインされます。

[EQs] ボタン ("Channel-Strips" セクション)：選択チャンネル モードの EQ

- Page 1 - "lo" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"、そして "mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"
- Page 2 - "hi mid" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"、そして "hi" バンドの "Gain"、"Frequency"、"Q"、"Enable"
- V-Pot を押すと EQ はバイパスとなります。

[Inserts/Sends] ボタン：選択チャンネル モードのセンド

- Page 1 - "Send 1" から "Send 8" の "Level"
- Page 2 - "Send 1" から "Send 8" の "Enable"

- Page 3 - "Send 1" から "Send 8" の "Pre/Post"
- Page 4 - "Send 1" から "Send 8" のバス
- V-Pot を押すとセンドはバイパスとなります。

[Dynamics] ボタン：選択チャンネル モードのルーティング

- Page 1 - 出力バス、モニター、入力バス、インプット ゲイン、インプット フェーズ
- V-Pot を押すとモニターのオン / オフを切り換えます。


[MIDI] ボタン：選択チャンネル モードのインサート、[Shift] ボタン + [Inserts/Sends] ボタン：グローバル モードのセンド エフェクト、[Shift] ボタン + [Dynamics] ボタン：グローバル モードのマスター エフェクト、[Shift] ボタン + [MIDI] ボタン：グローバル モードのインストゥルメントの詳細については、[17 ページ](#)の『[Mackie Control と Cubase の使用](#)』の章を参照してください。

有効な機能は以下のとおりです。

[Instrument] ボタン：選択チャンネル モードのインストゥルメント

- Page 1 - インストゥルメントの選択
- Page 2-n - インストゥルメントのパラメーター

Roland MCR-8


 リモート操作を開始する前に、MCR-8 の "Mode" スイッチを "4" に設定しておいてください。

Roland MCR-8 は、16 個の VST チャンネルとトランスポートをリモートコントロールできます。チャンネル 1-8 とチャンネル 9-16 のコントロールを切り換えるには [A / B] スイッチを使います。各チャンネルストリップについて、以下の MCR-8 のパラメーターが、VST の対応するパラメーターをコントロールします。

- フェーダーレベル、ミュート、ソロ、パン


以下の MCR-8 のトランスポートが、プログラムのトランスポートに対応します。

- 再生、ストップ、レコード、巻戻し、早送り

 MCR-8 は、「MIDI フィードバック」をサポートしていません。つまり、プログラムの各パラメーターの現在状況（ステータス）が MCR-8 に知られることはありません。MCR-8 とプログラムの間には「一方通行の」MIDI 接続となります。

Tascam US-428

US-428 は、最高 64 の VST ミキサー チャンネルをリモートコントロールできます。

- 「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログに "Tascam US-428" デバイスを追加すると、リモートステータスウィンドウが現れます。現在リモートデバイスによってコントロールされているバンク（お使いのアプリケーションの 8 つのチャンネルからなるグループ）が示されます。他のバンクを選択するには、ウィンドウのポップアップメニュー、あるいはリモートデバイス上の [Bank Left] / [Bank Right] ボタンを使用します。
- US-428 の各トランスポートキーは、プログラムのトランスポート機能に対応します。
- マーカーを設定するには、[Set] + [Locator] キーを押します。
- [Null] ファンクションキーを押しながらフェーダーを動かすと、フェーダー上の "Select"、および "Rec" インジケータに、フェーダーの位置がプログラムの現在のフェーダーレベルを上回っているか、下回っているかが示されます。上のインジケータの点灯はパネル上のフェーダーポジションがフェーダーレベルを上回っていることを示し、下のインジケータが点灯していれば、その逆であることを示します。インジケータが 2 つとも消えているときは、そのチャンネルのフェーダーポジションは一致しています。
-  US-428 は、「MIDI フィードバック」をサポートしているので、ミュート (Mute) / ソロ (Solo) の区別、チャンネルの選択状況、EQ バンド、Aux1-4、トランスポートの現在状況（ステータス）を、US-428 のパネル上に表示させることができます。これら（およびフェーダーポジションの表示）を使えるようにするには、Cubase と US-428 の間で、双方向による MIDI 接続が必要です。

ミキサー

US-428 の以下の各コントロールは、VST ミキサーの各チャンネルストリップに対するパラメーターをリモートコントロールします。

- Fader: ボリューム
- Solo / Mute: ソロ / ミュート ([Solo] スイッチを使って選択)
- Select: 編集するチャンネルの選択
- Pan-Dial: パン
- EQ-Gain

[Low]、[LoMid]、[HiMid]、[High] ボタンで選択された各バンドに対して、EQ のゲイン (Gain) を制御します。これらは、プログラムの 4 つの EQ バンドに、左端から順に対応します。

・ EQ-Freq

[Low]、[LoMid]、[HiMid]、[High] ボタンで選択された各バンドに対して、EQの周波数 (Freq.) を制御します。これらは、プログラムの4つのEQバンドに、左端から順に対応します。

・ EQ-Q

[Low]、[LoMid]、[HiMid]、[High] ボタンで選択された各バンドに対して、EQの"Q"値を制御します。これらは、プログラムの4つのEQバンドに、左端から順に対応します。

・ Aux1-4、およびシャトルホイール

"センド (Send)"1-4に対するエフェクトセンドレベル

・ [Aux Send] ボタンが選択されていない場合、シャトルホイールは「ポジションシャトル」として動作します。

オンになっているボタンを押して、選択を解除します。

・ [Asgn] ボタンを押しながら [Low]、[LoMid]、[HiMid]、[High EQ] の各ボタンを押すと、対応するEQバンドの [オン (Enable)] ボタンのステータスを切り換えます。

・ [Asgn] ボタンを押しながら [Aux1-4] のボタンを押すと、対応するエフェクトセンド1-4の [オン (Enable)] ボタンのステータスを切り換えます。

Gallery ADRStudio (Nuendo のみ)

Gallery 社の ADRStudio は ADR (Automated Dialog Replacement - ダイアログ自動置換) セッションを実現するためのソフトウェアです。別のコンピュータにインストールされた ADRStudio から、MIDI ポートを経由して、Nuendo システムに接続することができます。設定は、次の手順で行います。

1. "デバイス (Devices)" メニューから、"デバイスの設定 (Device Setup)" ダイアログを開きます。

2. "デバイスの追加 (Add Device)" 欄のポップアップメニューから "Gallery Software ADRStudio" を選択します。

3. 接続内容に従って MIDI In/Out ポートを設定したうえで、ADR Studio の "Audition" ボタンと "Window/Alt" ボタンに Nuendo の制御機能を割り当てます。

選択したパラメーターが ADRStudio の各ボタンにセットされます。

これで、ADRStudio は Nuendo を「拡張されたレコーディングマシン」として制御できるようになります。ADRStudio は、レコーディング、イン/アウトのタイミング操作、トラック名の設定を始めとして、一般的な管理操作まで行うことができます。

・ 機能やパラメーターなどの詳細については、ADRStudio に付属する説明書を参照してください。

WK-Audio ID (Nuendo のみ)

WK Audio ID コントローラーは、ポストプロダクション、サウンドトラックの制作やサウンドデザインなど、オーディオ制作 / 編集作業に適した機器で、Cubase をリモートコントロールできます。設定は以下の手順で行います：

1. "デバイス (Devices)" メニューから、"デバイスの設定 (Device Setup)" ダイアログを開きます。

2. "デバイスの追加 (Add Device)" 欄のポップアップメニューから "WK-Audio ID" を選択します。

3. 接続内容に従って MIDI In/Out ポートを設定し、WK-Audio ID User コントローラーのボタンに Cubase の制御機能を割り当てます。

選択したパラメーターが WK-Audio ID コントローラーの各ボタンにセットされます。

・ 機能やパラメーターなどの詳細については、WK-Audio ID コントローラーに付属する説明書を参照してください。

Yamaha 01V

Yamaha 01V は、ご使用のアプリケーションをリモートコントロールできます。リモートによる操作を開始する前に、01V を次のようにセットアップしておく必要があります。

・ MIDI パラメーターの "Change" と "Receive" を使用可能にします。

・ MIDI コントロールの "Change" と "Receive" を使用不可にします。

・ "Device ID / MIDI Channel Receive" は "1" に設定します。

・ "Local Control" を "Off" にします。

"Local Control : Off" が選択されると、リモートがただちに使用可能となります。

01V によるご使用のアプリケーションのリモート操作はきわめて単純で、(ほとんど) すべての VST パラメーターに対して、01V のミキサーにも同じようなパラメーター コントローラーが存在します。モーターフェーダー、インジケーターなどを使って、リモート可能なすべてのパラメーターの現在状況 (ステータス) が、01V にフィードバックされてパネルに表示されます。この機能を使えるようにするには、01V とプログラムの間で、双方向による MIDI 接続が必要です。

32 のチャンネルに対するリモートを可能にするために、2 つの独立したコントロール「レイアウト」が使われていて、それぞれが 16 チャンネルずつ、VST チャンネルをリモートする仕組みになっています。01V の [Memory] ボタンを使って、VST のレイアウト 1 とレイアウト 2 の切り換えを行ないます。ページ 1 = VST レイアウト 1、ページ 2 = VST レイアウト 2 と、それぞれ対応します。

ミキサーのチャンネル 1-32 に対して、リモート操作の可能なパラメーターは以下のとおりです。

⚠ 01Vのパラメーターの値の範囲が、対応するパラメーターの範囲と一致しない場合もあります。

- **フェーダー レベル、ミュート、パン**
これらのパラメーターに対する 01V のコントロール類が、プログラムの対応するパラメーターをリモート コントロールします。
 - **"センド (Sends)" 1-6**
01V の Aux 1-4 は "センド (Send)" 1-4 を、01V の Effect 1-2 は "センド (Send)" 5-6 をリモート コントロールします。
 - **EQ: "周波数 (Freq.)", "ゲイン (Gain)", "Q (Quality)" (4 バンド)**
これらのパラメーターに対する 01V のコントロール類が、プログラムの対応するパラメーターをリモート コントロールします。
 - **Stereo Master**
これらのパラメーターに対する 01V のコントロール類が、プログラムの対応するパラメーターをリモート コントロールします。
 - **"センド レベル (Send Level)" 1-4 は 01V の Aux Master 1-4 で、"センド レベル (Send Level)" 5-6 は 01V の Effect Master 1-2 でリモート コントロールされます。**
- レイアウト 1 では、01V は以下の VST チャンネルをコントロールします。
- チャンネル 1-12、13 / 14、15 / 16 が、チャンネル 1-14 をコントロールします。
 - 01V の Return 1 / 2 が、チャンネル 15 / 16 をコントロールします。
- レイアウト 2 では、01V は以下のチャンネルをコントロールします。
- チャンネル 1-12、13 / 14、15 / 16 が、チャンネル 17-30 をコントロールします。
 - 01V の Return 1 / 2 が、チャンネル 31 / 32 をコントロールします。

Yamaha DM2000/DM 2000v2

Yamaha DM2000 は、事実上すべてのコンソール パラメーターのオートメーションにフル対応したデジタル ミキシング コンソールです。Cubase や Nuendo などのデジタル オーディオ ワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメーターの詳細については、Yamaha DM2000 付属の説明書を参照してください。

有効な機能は以下のとおりです。

AUTOMIX セクション

ユーザー定義キー	DM 2000 ボタン	プログラムで対応する機能
#0	Display	オートメーションパネルの開閉
#1	Enable	プレビューモード
#2	Rec	パンチプレビュー
#3	Abort	ドロップアウト モード タッチ フェーダー
#4	Auto rec	ドロップアウト モード オートラッチ
#5	Return	ドロップアウト モード クロスオーバー
#6	Relative	トリムモード
#7	Touch sense	全トラックの書き込み可能オン/オフ切り換え

SET キー & ユーザー定義キー

ユーザー定義キー	DM 2000 ボタン	Cubase で対応する機能
#1	Set + suspend	n.a. 試聴の実行と停止
#2	Set + write	n.a. 再生と同時にパンチイン
#3	Set + touch	n.a. Punch log: load selected
#4	Set + latch	n.a. Punch log: keep selected
#5	Set + read	n.a. Fill to punch
#6	Set + trim	n.a. 左右ロケーターで反復複製
#7	Set + off	n.a. Fill to end
#8	Fader	n.a. ボリューム書き出しの実行と停止
#9	ON	n.a. ミュート書き出しの実行と停止
#10	PAN	n.a. /パン書き出しの実行と停止
#11	Surround	n.a. インサート書き出しの実行と停止
#12	AUX	n.a. センド書き出しの実行と停止
#13	AUX on	n.a. その他の書き出しの実行と停止
#14	EQ	n.a. EQ 書き出しの実行と停止
#8	Set + Fader	n.a. ボリューム読み込みの実行と停止
#9	Set + ON	n.a. ミュート読み込みの実行と停止

ユーザー定義キー	DM 2000 ボタン	Cubase で対応する機能
#10	Set + PAN	n.a.パン読み込みの実行と停止
#11	Set + Surround	n.a.インサート読み込みの実行と停止
#12	Set + AUX	n.a.センド読み込みの実行と停止
#13	Set + AUX on	n.a.その他の読み込みの実行と停止
#14	Set + EQ	n.a.EQ 読み込みの実行と停止

- [Auto]: 書き込み可能
- [Set] + [Auto]: 読み取り可能
- DM2000 には [Aux9] から [Aux12] にスタジオ センド 1-4 を追加 - 操作はセンド（ボリューム、オン / オフ、プリ / ポスト対応）の場合と同じです。
- マトリックス [Aux9] から [Aux12] を使用すると、フェーダーの上からスタジオ センド 1-4 をエンコーダーにアサインすることになります。
- 選択チャンネル Aux9-12 はスタジオ センド 1-4 をアサインすることになります。

Yamaha DM1000v2

Yamaha DM1000v2 は、事実上すべてのコンソール パラメーターのオートメーションにフル対応したデジタル ミキシング コンソールです。Cubase や Nuendo などのデジタル オーディオ ワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメーターの詳細については、Yamaha DM1000v2 付属の説明書を参照してください。

Yamaha 01v96v2

Yamaha 01V96V2 は、事実上すべてのコンソール パラメーターのオートメーションにフル対応したデジタル ミキシング コンソールです。Cubase や Nuendo などのデジタル オーディオ ワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメーターの詳細については、Yamaha 01v96v2 付属の説明書を参照してください。

Yamaha 02r96v2

Yamaha 02R96V2 は、事実上すべてのコンソール パラメーターのオートメーションにフル対応したデジタル ミキシング コンソールです。Cubase や Nuendo などのデジタル オーディオ ワークステーションと融合して劇的な効果を発揮できるような設計になっています。

- その機能やパラメーターの詳細については、Yamaha 02r96v2 付属の説明書を参照してください。

2

Mackie Control と Cubase の使用

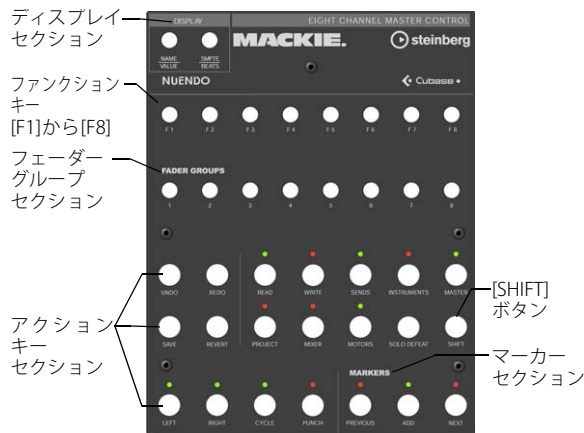
Mackie Control における Steinberg レイアウト

この項には、「Mackie Control」の Steinberg に特化されたレイアウトの説明、そして 8 チャンネルの拡張ユニット「Mackie Control XT」に関する情報が記されています。

Steinberg に特化したキー アサインを示すオーバーレイが Mackie Control に付属しています。オーバーレイは、トランスポートコントロールの上、Mackie Control の右上部にかぶせることができます。これらのキー アサインによって、プログラムをリモート コントロールすることが可能です。

なお、Mackie 社にこの Lexan オーバーレイを発注することが可能です。詳細はハードウェアの販売店にお問い合わせください。

次の図は、Mackie Control 用の Steinberg オーバーレイです。



! この章では、Steinberg オーバーレイ上のキー アサインについて説明します。オーバーレイによって隠される Mackie Control のオリジナルのラベル表示は言及されません。

SHIFT ボタンについて

アクションキーセクションの 2 列目右端に、[SHIFT] ボタンがあります。この [SHIFT] ボタンは、常に他の各ボタンと組み合わせて用いて、各ボタンの機能を拡張します。[SHIFT] ボタンだけを押しても何も効果はありません。

Mackie Control XT について

Mackie Control XT 8 チャンネル拡張ユニットもサポートされています。すべてのフェーダー、エンコーダー/ディスプレイは、つながったサーフェスとして統合されます。以下の点にご注意ください。

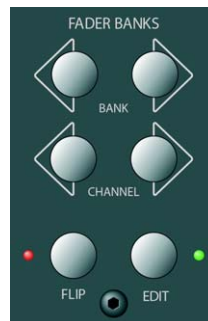
- エンコーダー セクションに 1 つのチャンネル (チャンネルストリップモード、もしくはプラグイン) のデータが表示されるとき、パラメーターはすべてのデバイスのエンコーダー セクション上に左から右に向かって表示されます。
- フェーダーバンクのナビゲーションとエンコーダーセクションのアサイン設定は Mackie Control ユニットからコントロールされません。
- Mackie Control と Mackie Control XT ユニットはそれぞれデバイス設定から新しいデバイスとして追加する必要があります。各デバイスに適切な MIDI ポートを割り当てます。
- デバイスリストでは、最も上に表示されているデバイスがいちばん右のチャンネルになり、最も下に表示されているデバイスがいちばん左のチャンネルとなります。使用中の MIDI ポートは "All MIDI Inputs" として機能しませんのでご注意ください。

基本的なミキシング操作

この項では、フェーダーとその上にあるボタン列 ([SOLO] / [MUTE] / [SELECT] / [REC] / [RDY]) の使用方法と、フェーダー操作の対称となるチャンネルの選択方法について説明します。

コントロールするチャンネルを選択する

Mackie Control のフェーダーは、ご使用のアプリケーションにおける異なる 8 つのチャンネル、およびマスターレベル (これには単独のフェーダーがあります) をコントロールすることができます。Mackie Control のフェーダーバンクセクションとフェーダーグループセクションを使って、コントロールするチャンネルを選択します。



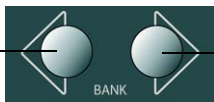
フェーダーバンクセクション



フェーダー グループ セクション

フェーダー バンク セクションのコントロール

フェーダー バンク セクションの [BANK] ボタン (左右の矢印) を押すと、8つのチャンネルのセットが、隣りの8つのチャンネルのセットに切り換わります。たとえば、現在ミキサー チャンネル 1-8 をコントロールしている場合、右の [BANK] ボタンを押すと、次の8つのチャンネル、すなわちチャンネル 9-16 をコントロールできるようになります。元のチャンネル セットに戻るには、左の [BANK] ボタンを押します。



前の8チャンネルを選択

次の8チャンネルを選択

- フェーダー バンク セクションの左右の [CHANNEL] ボタンを押すと、フェーダーのチャンネルの割り当てが、1チャンネルずつ段階的に移動します。
現在フェーダーがチャンネル 9-16 をコントロールしているとき、左の [CHANNEL] ボタンを押すと、フェーダーのチャンネルの割り当てが1つ左側に移動し、コントロールするチャンネル セットは、チャンネル 8-15 となります。
- フェーダー バンク セクションの [FLIP] ボタンを押すと、フェーダーと V-Pot の間で、パラメーターの割り当てが切り換わります。すなわち、フェーダーでコントロールしていたパラメーターを、対応する V-Pot でコントロールすることになります (逆も同様)。
- フェーダー バンク セクションの [EDIT] ボタンを押すと、現在の選択部分 (トラック、イベントなど) に対応する各種のエディターが開きます。
- [SHIFT] ボタンを押しながら [EDIT] ボタンを押すと、現在アクティブな (最も手前に表示されている) ウィンドウが閉じられます。

フェーダー グループ セクションのコントロール

アプリケーションでミキサー ウィンドウの「ビュー プリセット」を作成するには、まず表示したいミキサー チャンネルの構成を行なってから、ミキサー ウィンドウ左下にある [ビュー セットの追加 (Store View Set)] ボタンをクリックします。

Mackie Control の Steinberg キー アサインで、チャンネル ビュー機能を活用することができます。フェーダー グループ セクションでは、お使いのアプリケーションであらかじめ定義された、最初のチャンネル ビューが [1] ボタンに割り当てられ、2つ目のチャンネル ビューは [2] ボタンに ... と、以下同様に割り当てられています。

このように、フェーダー グループ セクションのボタンのいずれか1つを押すことにより、アプリケーションにおける任意の8つのチャンネルのビューを切り換えることができます。

フェーダーについて

Mackie Control のフェーダーを利用して、実際のレベル コントロールとミキシングを行ない、お使いのアプリケーションの対応するチャンネル レベルを精密に調節できます。

各フェーダーはモーター駆動であるため、プロジェクトで作成したすべてのレベル オートメーションを反映して、フェーダー位置が自動的に移動します (ただしプロジェクト上でオートメーションを有効にしている場合)。

コントロールする8つのチャンネルのセットを選択し直した場合も、フェーダー位置は即座に、その新しい8つのチャンネルにおける現在のレベルを反映するべく移動します。

- フェーダーはタッチ センス方式で、フェーダーを手動で操作すると直ちにモーターが「上書き」されます。
つまり、すでにレベルがオートメーション化されている場合でも、いつでもフェーダーに触れてオートメーションを上書きすることが可能です。これは、デスクトップ上でマウスを使用して、移動している画面上のフェーダーを直接操作する場合と同じです。
- フェーダーのモーターが動作する際の音は非常に小さいものですが、それでも完全に無音状態にしたい状況もあるでしょう (たとえば、非常にソフトで微妙な音楽のミックスを行なう場合など)。そのような場合、アクション キー セクションにある [MOTORS] ボタンを押して、モーターの動作を一旦を停止することができます。
作業が終了したら、再度 [MOTORS] ボタンを押します。フェーダーのモーターがふたたび動作して、フェーダー位置が直ちに現在の設定レベルを反映するべく移動します。

! モーターの動作を停止しても、プログラムのオートメーションに影響はありません。プロジェクト内のすべてのオートメーション データは、通常通りに再生されます。

REC / RDY

V-Pot のすぐ下にある [REC/RDY] ボタンを押して、各トラックを録音待機 (Record Ready) 状態にします。LED が点灯して、そのトラックが待機状態であることを示します。



[REC/RDY] ボタンの下にある "SIGNAL" LED は、各チャンネルの信号状況を示します。アプリケーションの各チャンネルのレベルメーターが何らかの動きを示すと同時に、LED が点灯します。

MUTE / SOLO



[REC/RDY] ボタンの下にある 2 列のボタンで、各チャンネルのミュート / ソロが可能です。次のルールが適用されます。

- 同時に複数のチャンネルのミュート / ソロができます。
- [MUTE] / [SOLO] ボタンは、常に現在の 8 つのチャンネルのセットにおける状態を示します。
つまり、あるチャンネルをミュートしてから、他のチャンネルセットに切り換えた場合は、[MUTE] ボタンは消灯します (言い換えれば、あらたなチャンネルセットのミュート / ソロ状況を示します)。

! チャンネルをソロにした場合、Mackie Control パネルの右上部にある "Rude Solo" インジケーターにより、「いずれかのチャンネルがソロになっている」ことが示されます。

[Solo Defeat] ボタンを押して ([SHIFT] ボタンを押さずに、あるいは押しながら)、すべてのチャンネル、あるいは複数チャンネルの組み合わせのミュート / ソロを解除することも可能です (30 ページの『ウィンドウの操作』参照)。

SELECT ボタンについて



フェーダーのすぐ上に [SELECT] ボタンの列があります。いずれかのチャンネルの [SELECT] ボタンを押すと、そのチャンネルが選択された状態となり、詳細な設定を行なえるようになります (21 ページの『セレクトドチャンネルモード』参照)。

- 一度に選択できるのは 1 チャンネルだけです。
- あるチャンネルをソロにすると、自動的に選択された状態になります。
- あるチャンネルを選択した後、フェーダーコントロールを目的に他の 8 チャンネルのセットを選択した場合、その [SELECT] ボタンは消灯します。
チャンネルは依然として選択されたままですが、現在のフェーダーセットには該当のチャンネルが表示されない状態となるため、ボタンは消灯します。

ミキサーオートメーションについて

アクションキーセクションの上側にある [READ] / [WRITE] ボタンは、プログラムのミキサーオートメーションの「読み込み (Read)」/ 「書き込み (Write)」モードに対応します。ミキサーオートメーションをリモートコントロールすることが可能です。

- [READ] ボタンを押すと、選択したチャンネルのオートメーションデータ読み込みのオン / オフを切り換えます。
- [SHIFT] ボタンを押しながら [READ] ボタンを押すと、すべてのチャンネルについて、オートメーションデータ読み込みのオン / オフを一律に切り換えます。
- [WRITE] ボタンを押すと、選択したチャンネルのオートメーションデータ書き込みのオン / オフを切り換えます。
- [SHIFT] ボタンを押しながら [WRITE] ボタンを押すと、すべてのチャンネルについて、オートメーションデータ書き込みのオン / オフを一律に切り換えます。

コントロールストリップのアサイン

この項では、コントロールストリップのアサインを行ない、すべてのVST セッティング (EQ、エフェクト センド、エフェクト、VST インストゥルメントのパラメーターなど) にアクセスする方法について説明します。また、Mackie Control のディスプレイに示される各パラメーター ページについても説明します。

基本的な手順

パラメーター グループを選択する

ディスプレイに各パラメーターの設定を表示して、V-Pot を使ってその設定を編集する際には、あらかじめ対応するパラメーター グループを選択する必要があります。これを行なうには、"Assignment" セクション、またはアクションキー セクションにあるボタンを押します。



アクションキー セクション



"Assignment" セクション

3つのモードについて

Mackie Control は、3つのモード (セレクトッドチャンネル、フェーダー セット、グローバル) のいずれかで動作します。使用されるモードは、どのパラメーター グループが選択されるかに依存します。たとえば、"Assignment" セクションの [PAN] ボタンを押した場合、Mackie Control はフェーダー セット モードとなります。

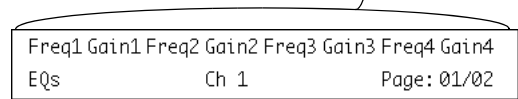
3つのモードの各機能について、以下のページで説明します。

セレクトッドチャンネル モード

このモードでは、選択された1つのチャンネルに対して、8つの異なるパラメーターに同時にアクセスすることが可能です。一般的なミキサー コンソールで、1つのチャンネルに対するパン、EQ、センドなどの、縦に並ぶチャンネル ストリップで作業を行なうのと同様に考えれば判りやすいでしょう。

このモードのパラメーター グループを選択すると、ディスプレイには次のように表示されます。

上の行には、利用できるパラメーターの名前が表示されます。各パラメーターは、対応するV-Potでコントロールできます。この例では、V-Pot 1で"Freq1"パラメーターを、V-Pot 2で"Gain1"パラメーターをコントロールできます。



選択されたパラメーター グループの名前

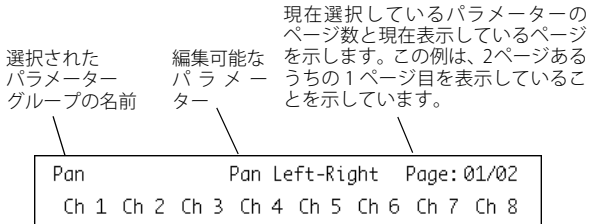
選択されたチャンネル

現在選択しているパラメーターのページ数と現在表示しているページを示します。この例は、2ページあるうちの1ページ目を表示していることを示しています。

- フェーダーのすぐ上部にある8つの[SELECT] ボタンを押して、セレクトッドチャンネル モードで編集するチャンネルを選択します。詳細については、20 ページの『SELECT ボタンについて』を参照してください。

フェーダー セット モード

このモードでは、8つのチャンネル（現在のフェーダー セット）に対して、1種類のパラメーターを選択して編集できます。一般的なミキサー コンソールで、8つのチャンネルに横1列に並ぶパン コントローラーなどで作業を行なうのと同様に考えれば判りやすいでしょう。



下の行には、現在のフェーダー セットにおける8つのチャンネルの名前が表示されます。対応するV-Potで、8つのチャンネルの1つずつに対して、選択したパラメーターをコントロールできます。この例は、V-Pot 1は"Ch1"の"Pan"パラメーターを、V-Pot 2は"Ch2"の"Pan"パラメーターをコントロールできる状態です。

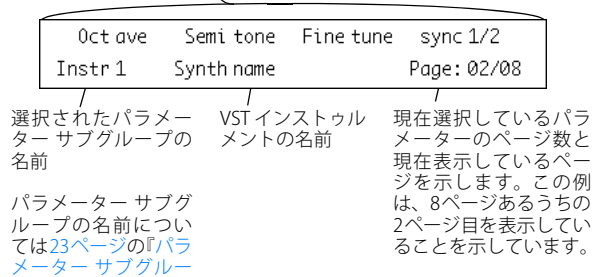
- ・ フェーダー バンク セクション、あるいはフェーダー グループ セクションのボタンを使って、編集対象とするチャンネルセット（8つのチャンネル）を選択します（18ページの『コントロールするチャンネルを選択する』を参照してください）。

グローバル モード

ここでは、グローバル設定、すなわち、チャンネルごとの設定ではない、各機能の設定を行ないます。これには、センド エフェクト、マスター エフェクト、VST インストゥルメントなどのパラメーター設定が含まれます。

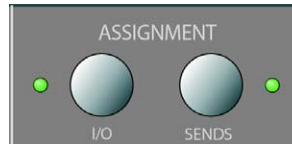
選択したパラメーター グループによって、ディスプレイの内容は異なります。ここでは "Instrument" グループが選択されており、現在アクティブなうちの、1つの VST インストゥルメントにおける設定が表示されている状態です。

上の行には、利用可能なパラメーターの名前が表示されます。多くのパラメーターから構成される場合も、1つのページの4つのパラメーターのみが表示されます（長い名前を表示するため）。各パラメーターは、2つのV-Potでコントロールできます。この例は、V-Pot 1またはV-Pot 2で"Octave"パラメーターを、V-Pot 3またはV-Pot 4で"Semitone"をコントロールできる状態です。



コントロール ストリップの使用

パラメーター グループ（またはパラメーターサブグループ - 下記参照）を選択したら、次に希望するパラメーターを含むページを開きます。"Assignment" セクションの上部にある [I/O] ボタン、または [SEND] ボタンを押して前後のページへ移動します。



- ・ [SHIFT] ボタン（アクション キー セクション 2 列目右側のボタン）を押しながら [I/O] ボタン、または [SEND] ボタンを押すと、有効なパラメーター ページの最初または最後に移動します。

パラメーターがディスプレイに表示されたら、対応する V-Pot を動かして、値を調整します。

- ・ V-Pot を動かすと、ディスプレイはパラメーター名の代わりに、そのパラメーターの値を表示します。
V-Pot を動かした後、わずかな時間だけ、いま設定した値が表示され、その後パラメーター名の表示に戻ります。
- ・ パラメーターの値を変更せず、確認するだけの場合は、ディスプレイ セクションの "[Name/Value] ボタンを押します。
これによって、ディスプレイにはパラメーターの値が表示されます。再度 [Name/Value] ボタンを押すと、パラメーター名の表示に戻ります。
- ・ パラメーターの値は、V-Pot の周りにある LED でも示されます。

パラメーター サブグループについて

設定項目の多くは以下のように構成されています：パラメーター グループ ("Assignment"、またはアクション キーのセクションのボタンを押してアクセスします) には、1つ、または複数のパラメーター ページが含まれており、それぞれに1つ、または複数のパラメーターがあります。

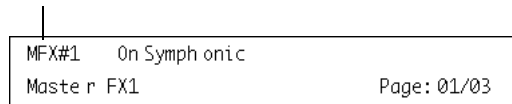
けれども、センド エフェクト、マスター エフェクト、インストゥルメント (以上グローバル モード)、インサート (セレクトッド チャンネル モード) には、もう1つのパラメーターの階層があります。これは「パラメーター サブグループ」と呼ばれます。たとえば、マスター エフェクトのパラメーターは、次のように構成されています。

"Master Effect" パラメーター グループには、8つのサブグループ、つまり各インサート エフェクト スロットごとに、1つのサブグループが含まれています。各サブグループには、いくつかのパラメーターを含むいくつかのページが含まれています (これらの数は、アクティブなエフェクトの種類に依存します)。

- 別のパラメーター サブグループを選択するには、現在のサブグループの最初のページを開き、V-Pot 1 を動かします。

下図は、マスター エフェクト グループの最初のパラメーター サブグループにおける、最初のページです。

マスター エフェクト スロット 1 を表しています。V-Pot 1 を使って、別のパラメーター サブグループ (すなわち別のマスター エフェクト スロット) を選択します。



シンボルについて

以下のページでは、各パラメーター グループについて説明しています。このパラメーター グループは、3つのモード - セレクトッド チャンネル、フェーダー セット、グローバル - に分かれます。

本章では、見分けやすいように各ページの上部のシンボルで各モードを示しています。



「縦」のセレクトッド チャンネル モード



「横」のフェーダー セット モード



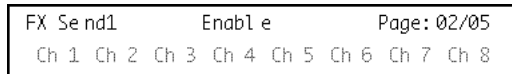
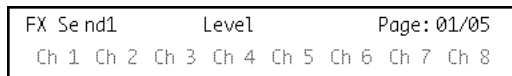
グローバル モード

Mackie Control ディスプレイで、パラメーター グループに1ページ以上のパラメーターがある場合は、次のシンボルで示します。



Mackie Control の "Assignment" セクションにある [I/O / Sends] ボタンで、ページを切り換えます。

たとえば下図の場合、[I/O / Sends] ボタンを使って、"Level" と "Enable" の各パラメーター ページを切り換えます。





セレクトッドチャンネル:EQ

現在選択されているチャンネルのEQコントロールにアクセスするためには、"Assignment" セクションの [EQ] ボタンを押します。[SHIFT] ボタン+[EQ] ボタンを押すと、選択されたチャンネルの1バンドがページごとに表示されます。

フェーダー上部の [SELECT] ボタンを押して、チャンネルを選択します。



EQコントロールは、2ページに分かれます。

- **Page 1**
4バンドの周波数 (Freq)、ゲイン (Gain)
- **Page 2**
4バンドのEQ オン (Enable) / オフ (Disable)、"Q"のコントロール

Freq1	Gain1	Freq2	Gain2	Freq3	Gain3	Freq4	Gain4
EQs		Ch 1					Page: 01/02



Enab1	Q1	Enab2	Q2	Enab3	Q3	Enab4	Q4
EQs		Ch 1					Page: 02/02

セレクトッドチャンネル:FX センド



現在選択されているチャンネルのエフェクト センド コントロールにアクセスするためには、"Assignment" セクションの [DYN] ボタンを押します。[SHIFT] ボタン+[DYN] ボタンを押すとフェーダー セット モードの "FX Send 1" から "FX Send 8" まで移動します。

フェーダー上部の [SELECT] ボタンを押して、チャンネルを選択します。



センドのコントロールは、4ページに分かれます。

- **Page 1**
8つのセンドレベル
- **Page 2**
8つのセンドオン (Enable) / オフ (Disable)
- **Page 3**
プリ (Pre) / ポスト (Post) フェーダー モード
- **Page 4**
センドの出力バス (Bus) の選択

Leve1	Leve2	Leve3	Leve4	Leve5	Leve6	Leve7	Leve8
FX Se nd		Ch 1					Page: 01/04



Enab1	Enab2	Enab3	Enab4	Enab5	Enab6	Enab7	Enab8
FX Se nd		Ch 1					Page: 02/04



Pre1	Pre2	Pre3	Pre4	Pre5	Pre6	Pre7	Pre8
FX Se nd		Ch 1					Page: 03/04



Bus1	Bus2	Bus3	Bus4	Bus5	Bus6	Bus7	Bus8
FX Se nd		Ch 1					Page: 04/04

! 出力バスの選択は、FXセンドの信号を内蔵エフェクト、グループチャンネル、またはハードウェアの出力バス (サウンドカードに複数の出力がある場合) などに直接送る場合に行なうものです。



セレクトッドチャンネル: インサート

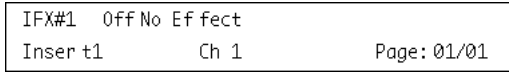
現在選択されているチャンネルのインサート エフェクト コントロールにアクセスするためには、"Assignment" セクションの [PLUG INS] ボタンを押します。

フェーダー上部の [SELECT] ボタンを押して、チャンネルを選択します。



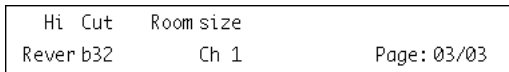
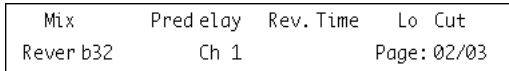
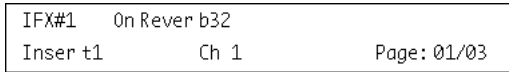
- "Page 01" が選択されている場合は、V-Pot 1 を動かして、編集したいインサート スロットを選択できます (23 ページの『パラメーターサブグループについて』参照)。

選択したインサート スロットにエフェクトが選択されていない場合は、ディスプレイには "No Effect" と表示されます。



ご使用のプログラムにプラグインを追加している場合、このエフェクト スロットで現在選択されたプラグインがディスプレイに表示されます。また、ページ数の表示は、プラグインのすべてのパラメーターを表示するのに必要なページ数となります。

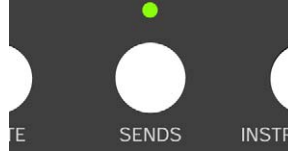
"Reverb32" プラグインを選択した場合は、このようになります。



セレクトッドチャンネル: Studio センド

現在選択されているチャンネルのStudioセンドコントロールにアクセスするためには、アクション キー セクションの [SENDS] と [SHIFT] ボタンを押します。

フェーダー上部の [SELECT] ボタンを押して、チャンネルを選択します。



Studio センドのコントロールは 4 ページに分割されています。

- **Page 1**
各 Studio センドのセンド レベル
- **Page 2**
各 Studio センドのオン (Enable) / オフ (Disable)
- **Page 3**
プリ (Pre) / ポスト (Post) フェーダー モード
- **Page 4**
Studio センド信号のパン コントロール



セレクトドチャンネル:インストゥルメント

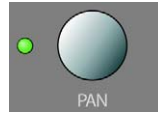
現在選択されているチャンネルのインストゥルメント コントロールにアクセスするためには、アクションキー セクションの [INSTRUMENTS] ボタンを押します。

フェーダー上部の [SELECT] ボタンを押して、チャンネルを選択します。



フェーダー セット : パン

現在のフェーダー セットのパン コントロールにアクセスするためには、"Assignment" セクションの [PAN] ボタンを押します。



それぞれの V-Pot を使って、現在のフェーダー セットにおける、各チャンネルのパンをコントロールします。

Pan	Pan Left-Right	Page: 01/02					
Ch 1	Ch 2	Ch 3	Ch 4	Ch 5	Ch 6	Ch 7	Ch 8

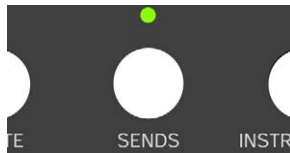


Pan	Pan Front-Rear	Page: 02/02					
Ch 1	Ch 2	Ch 3	Ch 4	Ch 5	Ch 6	Ch 7	Ch 8

G

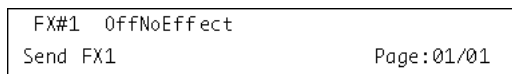
グローバル：センドエフェクト

Mackie Control から、FX チャンネルの最初のインサートに読み込まれているエフェクトのパラメーターをコントロールできます。これらのエフェクトにアクセスするためには、アクション キー セクションの [SENDS] ボタンを押します。



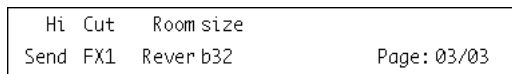
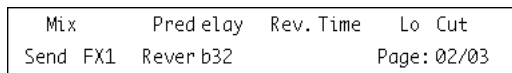
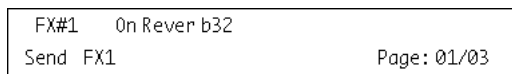
- "Page 01" が選択されている場合は、V-Pot 1 を動かして、編集したいエフェクト スロットを選択できます (23 ページの『パラメーターサブグループについて』参照)。

選択したスロットにエフェクトが選択されていない場合は、ディスプレイには "No Effect" と表示されます。



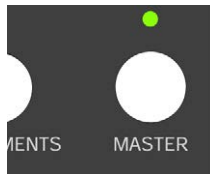
ご使用のプログラムにプラグインを追加している場合、このエフェクト スロットで現在選択されたプラグインがディスプレイに表示されます。また、ページ数の表示は、プラグインのすべてのパラメーターを表示するのに必要なページ数となります。

"Reverb32" プラグインを選択した場合は、このようになります。

**G**

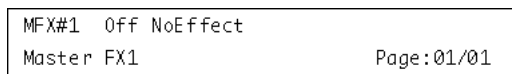
グローバル：マスターエフェクト

Mackie Control から、メインの出力バスのマスター エフェクト セクションに起動されている各エフェクトのパラメーターをコントロールできます。これらのエフェクトにアクセスするためには、アクション キー セクションの [MASTER] ボタンを押します。



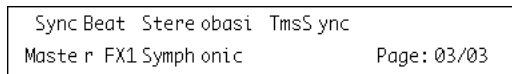
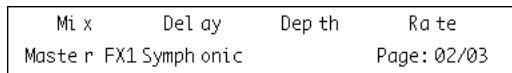
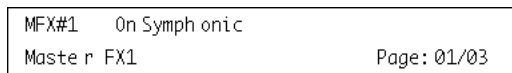
- "Page 01" が選択されている場合は、V-Pot 1 を動かして、編集したいエフェクト スロットを選択できます (23 ページの『パラメーターサブグループについて』参照)。

選択したスロットにエフェクトが選択されていない場合は、ディスプレイには "No Effect" と表示されます。



ご使用のプログラムにプラグインを追加している場合、このエフェクト スロットで現在選択されたプラグインがディスプレイに表示されます。また、ページ数の表示は、プラグインのすべてのパラメーターを表示するのに必要なページ数となります。

"Symphonic" プラグインを選択した場合は、このようになります。



G

グローバル：インストゥルメント

Mackie Control から、Cubase の VST インストゥルメント ラックに起動した各インストゥルメントのパラメーターをコントロールできます。これらにアクセスするためには、アクション キー セクションの [INSTRUMENTS] ボタンを押し、[SHIFT] ボタンを押します。



- "Page 01" が選択されている場合は、V-Pot 1 を動かして、編集したい VST インストゥルメント スロットを選択できます (23 ページの『パラメーターサブグループについて』参照)。

選択したスロットにインストゥルメントが選択されていない場合は、ディスプレイには "No Effects" と表示されます。

VST#1	No Effect	
Instr 1		Page: 01/01

ご使用のプログラムにインストゥルメントのプラグインを追加してある場合、このスロットで現在選択されたプラグインがディスプレイに表示されます。また、ページ数の表示は、プラグインのすべてのパラメーターを表示するのに必要なページ数となります。

VST#1	Synth name	
Instr 1		Page: 01/08



Oct ave	Semi tone	Fine tune	sync 1/2
Instr 1	Synth name		Page: 02/08



Oct ave	Semi tone	Fine tune	Noise level
Instr 1	Synth name		Page: 03/08



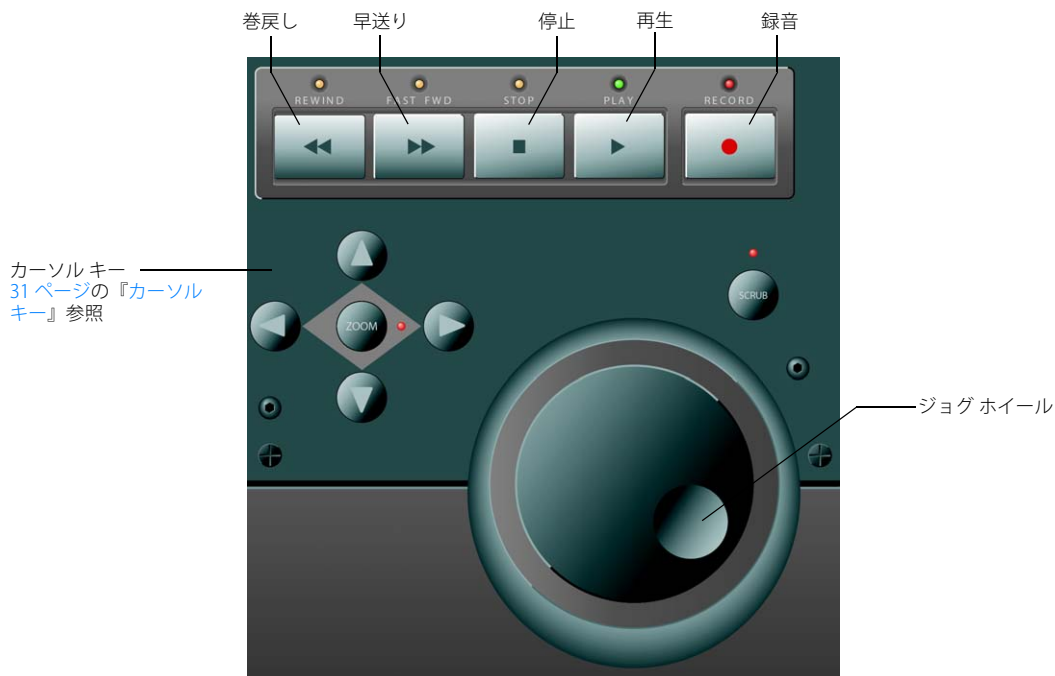
FilterFreq	Resonanc	Evn Amt	Over drive
Instr 1	Synth name		Page: 04/08

トランスポートコントロール

この項では、Mackie Control からお使いのアプリケーションの再生、録音、ポジショニング、および時間表示をコントロールする方法について説明します。

トランスポートのコントロールの機能

Mackie Control のトランスポート コントロールは、パネルの右下にあります。

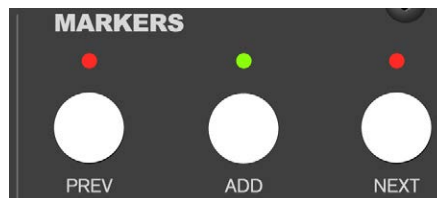


- ・ [SHIFT] ボタンを押しながら [REWIND] / [FAST FWD] ボタンを押すと、プロジェクトカーソルがプロジェクトの開始 / 終了の位置に移動します。

ジョグホイールについて

ジョグホイールはプログラムのプロジェクトカーソルを移動する際に使用します。ジョグホイール上部の [SCRUB] ボタンを押した場合、プログラムのジョグ機能（音を再生しながら早送り、巻き戻し）が使用できます。

マーカーを使った作業



Mackie Control を使用し、プロジェクト内であらかじめ定義した特定のマーカーポジションにプロジェクトカーソルの位置を直接移動させることが可能です。また、マーカーをプロジェクトの現在の位置に追加することもできます。マーカーの使用法としては、おそらく "L" / "R" マーカー、すなわち左右ロケーターの各ポジションに移動するのが最も一般的でしょう。

マーカー ポジションへの移動

"MARKERS" セクション (トランスポート コントロールのすぐ上) にある [PREV] / [NEXT] ボタンを押して、プロジェクト内の現在のカーソルの位置から、その次、あるいは1つ手前のマーカー ポジションに移動します。

マーカーの追加

1. プロジェクト カーソルを、マーカーを追加したい位置に配置します。
2. "MARKERS" セクションの [ADD] ボタンを押します。
プロジェクト内の現在のカーソルの位置にマーカーが追加されます。

タイム ディスプレイについて

ディスプレイセクションの [SMPTE/Beats] ボタンを押すと、ご使用のアプリケーションのプロジェクト設定で選択するのと同様に、Mackie Control のタイム ディスプレイが「小節 & 拍」とタイムコード フォーマットの間で切り換わります。

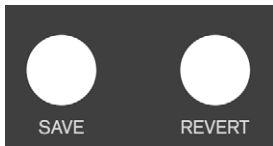
この変更は、アプリケーション上のトランスポートバーにも反映します。

! Cubaseのトランスポート上でタイム ディスプレイを変更した際は、この変更は Mackie Control に反映しません。タイム ディスプレイを Mackie Control 上で変更した時点で、アプリケーションのプロジェクト設定のフレーム レートとディスプレイ フォーマットと同一の表示となります。

その他の機能

この項では、Mackie Control のパネルで利用できる、その他の機能について説明します。

プロジェクト機能

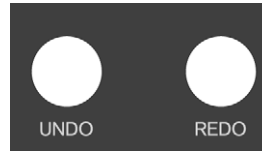


アクション キー セクションの [SAVE] / [REVERT] ボタンには、次のような機能があります。

- [SAVE] ボタンを押すと、現在のプロジェクトを保存します。
「ファイル (File)」メニューから「保存 (Save)」を行なうのと同じです。

- [SHIFT] ボタンを押しながら [SAVE] ボタンを押すと、現在のプロジェクトのバックアップ コピーを保存します。
「ファイル (File)」メニューから「新しいバージョンを保存 (Save New Version)」を行なうのと同じです。
- [REVERT] ボタンを押すと、現在のプロジェクト内容が、最後に保存した状態に戻ります。
「ファイル (File)」メニューから「最後の保存時の状態に戻す (Revert)」を行なうのと同じです。

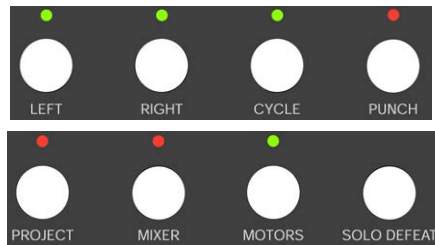
編集機能



アクション キー セクションの [UNDO] / [REDO] ボタンには、次のような機能があります。

- [UNDO] ボタンを押すとご使用のアプリケーションで最後に行なった操作内容を取り消します (アンドウ)。
- [SHIFT] ボタンを押しながら [UNDO] ボタンを押すと「編集履歴 (Edit History)」ダイアログが開きます。
- 再度「UNDO」するには [REDO] ボタンを押します。

ウィンドウの操作



"MARKERS" セクションの上部、および左側にあるボタンを使って、ご使用のアプリケーションのプロジェクト機能をコントロールしたり、ウィンドウの開閉を行なうことができます。

- [LEFT] ボタンを押すと、現在左ロケーターとして指定されている位置に、プロジェクト カーソルを配置します。
- [SHIFT] を押しながら [LEFT] ボタンを押すと、現在のカーソルの位置に左ロケーターを設定します。
- [RIGHT] ボタンを押すと、現在右ロケーターとして指定されている位置にプロジェクト カーソルを配置します。

- ・ [SHIFT] を押しながら [RIGHT] ボタンを押すと、現在のカーソルの位置に右ロケーターを設定します。
- ・ [CYCLE] ボタンを押すと、プログラムのサイクル モードのオン/オフが切り換わります。この設定はトランスポートバーに反映されます。
- ・ [PUNCH] ボタンを押すと、プログラムのオートパンチインのオン/オフが切り換わります。この設定はトランスポートバーに反映されます。
- ・ [PROJECT] ボタンを押すと、現在のプロジェクト ウィンドウが手前に表示されます。
- ・ [MIXER] ボタンを押すと、ミキサー ウィンドウを開閉します。
- ・ [MOTOR] ボタンを押すと、モーター フェーダーの動作オン/オフが切り換わります (19 ページの『フェーダーについて』参照)。
- ・ [SOLO DEFEAT] ボタンを押すと、すべてのチャンネルのソロがオフになります。
- ・ [SHIFT] ボタンを押しながら [SOLO DEFEAT] ボタンを押すと、すべてのチャンネルのミュートがオフになります。

Mackie Control の右上、ディスプレイの隣に、"RUDE SOLO" と表示される LED があります。これは、いずれかのチャンネルがソロになった場合に点灯します。



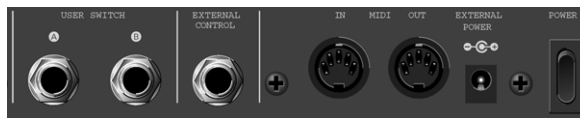
RUDE SOLO LED

ファンクション キー



[F1] から [F8] のファンクション キー、そして [SHIFT] ボタンを組み合わせ、お使いのアプリケーションの各機能 (コマンド) にアクセスすることができます。Mackie Control のファンクション キーに各機能を割り当てる方法については、『オペレーション マニュアル』を参照してください。

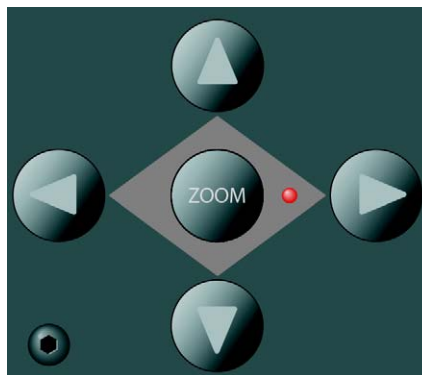
Mackie Control のリア パネルには、フットペダル入力端子が 2 つあり、"User Switch A / B" と表示されています。



Mackie Control のリア パネルのスイッチ、および各入力端子

フットペダルに対して機能を割り当てる手順は、ファンクション キーにおける場合と同様です (上記参照)。

カーソル キー



ジョグ ホイールの左にあるカーソル キーは、お使いのアプリケーションにおいて、PC キーボードの矢印キーと同様に機能します。

パラメーター ディスプレイ上でのレベル メーターの表示

[SHIFT] ボタンと [SMPTE/Beats] ボタンを押すと、パラメーター ディスプレイ上に各チャンネルのレベル メーターを表示させることができます。もう一度同じボタンを押すとパラメーター モードに戻ります。

索 引

A

Apple Remote [6](#)

B

Bankボタン [19](#)

C

CHANNELボタン [19](#)

CM Automation Motor Mix [6](#)

Cycleボタン [31](#)

E

Editボタン [19](#)

EQ

Selected Channel mode [26](#)

セレクトッドチャンネルモード [24](#)

F

Flipボタン [19](#)

FX Send

セレクトッドチャンネルモード [24](#)
モード [25, 27](#)

G

Gallery ADRStudio [14](#)

H

Houston [8](#)

J

JL Cooper CS-10 [8](#)

JL Cooper MCS-3000 [9](#)

L

Leftボタン [30](#)

M

Mackie Control [9](#)

Mackie Control XT [18](#)

Mackie HUI [9](#)

Mixerボタン [31](#)

Motorsボタン [19](#)

Muteボタン [20](#)

N

Name/Valueボタン [22](#)

P

Page Up/Downボタン [22](#)

Pan

Fader Set mode [26](#)

フェーダーセットモード [26](#)

Projectボタン [31](#)

Punchボタン [31](#)

R

Radikal Technologies SAC-2K [11](#)

Readボタン [20](#)

Rec/Rdyボタン [20](#)

Redoボタン [30](#)

Revertボタン [30](#)

Rightボタン [30](#)

Roland MCR-8 [13](#)

S

Saveボタン [30](#)

Selectボタン [20](#)

編集時のチャンネルの選択 [20](#)

SMPTE/Beatsボタン [30](#)

Soloボタン [20](#)

Studio Sends

セレクトッドチャンネルモード [25](#)

T

Tascam US-428 [13](#)

U

Undoボタン [30](#)

V

V-Pot [22](#)

VSTインストゥルメント [28](#)

W

Writeボタン [20](#)

Y

Yamaha 01V [14](#)

Yamaha 01v96v2 [16](#)

Yamaha 02r96v2 [16](#)

Yamaha DM1000 [16](#)

Yamaha DM2000/DM2000v2 [15](#)

い

インサート

セレクトッドモードチャンネル [25](#)

インストゥルメント

セレクトッドチャンネルモード [26](#)

え

エフェクト

センドエフェクト [27](#)

マスターエフェクト [27](#)

お

オーバーレイ [18](#)

か

カーソルキー [31](#)

く

グローバルモード [22](#)

こ

コントロールストリップ [22](#)

し

ジョグホイール [29](#)

せ

セレクトッドチャンネルモード [21, 24](#)

センド

セレクトッドチャンネルモード [24](#)

センドエフェクト [27](#)

と

トランスポートコントロール [29](#)

は

パラメーターグループ [21](#)

パラメーターサブグループ [23](#)

ふ

フェーダー [19](#)

フェーダーセットモード [22, 26](#)

ほ

ホイール [29](#)

ま

マーカー [29](#)

マスターエフェクト [27](#)

も

モーター [19](#)

れ

レベルメーター [31](#)